

中国語教育学会会報

第50号(通巻75号) 2017年8月29日発行

〒599-8531

大阪府堺市中区学園町1番1号
大阪府立大学 高等教育推進機構
清原文代研究室内

中国語教育学会

Website <http://www.jacle.org/>

Email headoffice@jacle.org

郵便振替口座 00110-1-191152

目次

1. 第15回全国大会について
2. 2017年度第1回理事会報告
3. 2017年度会員総会報告
4. 『中国語教育』第16号の投稿募集について
5. 2017年度研究会開催報告
6. 会員情報管理Webシステムについて
7. 事務局からのお知らせとお願い

1. 第15回全国大会について

中国語教育学会第15回全国大会(共催:関西大学東西学術研究所)が、2016年6月3日(土)～4日(日)の両日、関西大学千里山キャンパス(大阪府吹田市山手町3丁目3番35号)において開催されました。初日午前中に第1回編集委員会、及び第1回理事会が開催されました。初日午後にはJoël Bellassenフランス国立東洋言語文化学院教授による招待講演「关于当前汉语二语教学论学科的认识论障碍」が行われ、引き続きワークショップ「基于日语母语者偏误分析的在日汉语语法教学」、「中国語の学校文法を考える」、「ICT利用の光と影-今までと同じ課題はもう出せなくなるかもしれない」が3本並行で開催されました。その後、会員総会と懇親会が開催されました。2日目は3会場に分かれて午前午後合わせて24本の発表が行われました。また、今大会よりポスター発表が導入され、4本のポスター発表がありました。口頭発表、ポスター発表とも活発な議論が行われました。当日のプログラムの詳細については以下のWebページをご覧ください。<http://www.jacle.org/annual15/>

今回の大会では非会員も含めて例年を大幅に上回る210名のご参加をいただき、懇親会には90名が参加されました。また13社の出版社・書店にご出店いただきました。講演者、発表者、司会者の方々、参加して下さった会員の皆様、そしてお忙しい中、全国大会の準備にご尽力くださった第15回全国大会準備委員会の先生方に厚く御礼申し上げます。

2. 2017年度第1回理事会報告

2.1 日時・場所・出席者

日時: 2017年6月3日(土) 10:30～12:30

場所：関西大学千里山キャンパス第1学舎5号館会議室1

出席者：清原文代、荒川清秀、郭春貴、古川裕、平井和之、三宅登之

植村麻紀子、加藤晴子、胡興智、佐々木勲人、鈴木慶夏、陳淑梅、

西香織、藤井達也、丸尾誠、村上公一、山田眞一

田邊鉄（デジタルリソース委員会委員長）

中田聡美（幹事・議事録）

2.2 審議事項

(1) 名誉会員

内規に基づき2018年4月1日に名誉会員の資格を満たす会員について報告があった（会員総会で認められた名誉会員については本会報p4を参照）。今年度より会員メーリングリストにて自己申告及び他の会員からの推挙を募ることとしたが、該当者の自己申告及び他の会員からの推挙はなかったため、事務局事務代行（あゆみコーポレーション）に依頼して内規の条件を満たす候補者のピックアップを行ない、理事会で審議した。

(2) 理事選挙に関する内規の改定

理事選挙に関する内規の改定について審議が行われた。理事選挙に当たっては、有権者の確定時期を定める必要があるが、現行の内規にはその規定がないため、下記の通り内規を改定した。

<改定前>

会長任期2年目の年度内最後の理事会開催以前に、事務局で郵便投票による理事選挙を行い、立会人のもとに開票する。選挙権者は全個人会員、被選挙権者は次年度に役員資格を有する個人会員（会長経験者を含む）とする。

<改定後>

会長任期2年目の年度内最後の理事会開催以前に、事務局で郵便投票による理事選挙を行い、立会人のもとに開票する。選挙権者は理事選挙のある年の9月30日時点での全個人会員、被選挙権者は次年度に役員資格を有する個人会員（会長経験者を含む）とする。

また、理事選挙の有権者の確定時期に合わせて、会則第5条に基づく会費未納による除籍を9月末までに行うことを事務局の申し合わせ事項とし、2018年度から会費未納による除籍者の氏名を会報（学会Webサイトにて公開）に掲載することとした。

(3) 2017年度予算案

会員総会で認められた予算案については本会報pp. 10-11に掲載している。

例年と異なる点としては、会員情報管理システムの導入がある。現在のような人力による会員情報の管理を業者に依頼するよりは、会員自身による会員情報管理が可能なWebシステムを導入した方が費用が安くなることから、会員情報管理のためのWebシステムの導入を進めたいと清原会長より提案があった。また現在は紙の入会申込書の郵送を求めている入会手続きについても、今年度から入会申込書の現会員紹介者欄をなくしたため、Webシステムを導入しても問題はないと説明があった。現在は入会申込書を受け取ってから事務局事務代行より必要事項を記入した払込取扱票を郵送しているが、入会手続き完了までの時間を短縮するために、Webシステム稼働後は、Webシステムを通じて入会申込みをした後に、入会申込み者自身が郵便局に備え付けの払込取扱票を使って必要事項を記入した上で、会

費を納入する形に変更したいとの提案があった。

(4) 第16回（2018年度）全国大会開催校、全国大会準備委員会

日時：2018年6月2日（土）3日（日）

場所：早稲田大学早稲田キャンパス（東京都新宿区西早稲田1-6-1）

大会準備委員会（敬称略、五十音順）

石井友美、植村麻紀子、氷野善寛、村上公一（委員長）、楊達、次期の学会幹事1名

※大会準備委員は必要に応じて随時増員する。

(5) 第17回（2019年度）全国大会開催校、全国大会準備委員会

日時：未定

場所：天理大学（奈良県天理市杣之内町1050）

大会準備委員会（予定）（敬称略、五十音順）

阿部慎太郎、今井淳雄、清原文代、中川裕三（委員長）、氷野善寛、紅粉芳恵、次期の学会幹事1名

※大会準備委員は必要に応じて随時増員する。

(6) 『中国語教育』版面の機関レポジトリへの収録について

『中国語教育』第15号に掲載された論文について、抜刷をPDF化したものを機関レポジトリに登録可能かどうか、著者の所属する大学付属図書館より問い合わせがあった。理事会メーリングリスト上の討議では結論が出ず、抜刷ではなく現行の投稿規程でも問題なく掲載できる著者の手元にある最終版のPDFを掲載することを許可した。第1回理事会において再度討議し、抜刷のPDFの機関レポジトリへの登録を認めることとなった。また、現在の投稿規定のままでは今後も同様の問い合わせがあることが予想されるため、本年12月に開催される第2回編集委員会及び第2回理事会で投稿規程の改定について議論することとした。

(7) 研究会の発表概要の学会Webサイトへの掲載について

学会Webサイトのアーカイブとしての機能を充実させるために、今後研究会における研究発表の要旨（日本語または中国語で300字程度）を可能な限り学会Webサイトに掲載することとした。掲載時期については研究会担当者の裁量の範囲とする。なお、研究会における講演、対談、ワークショップについてはこの限りではない。

2.3 報告事項

(1) 2016年度決算報告

清原会長より2016年度の決算報告が行われた（会計監査の結果については本会報pp. 9-10を参照）。当初事務局業務の一部外部委託を開始するため赤字予算を立てていたが、結果的には単年度赤字にはならず済んだ。事務局の一部業務委託が11月からとなったこと、会報を電子版とすることで郵送費を削減できたことが主な要因である。

(2) 2017年度第1回編集委員会報告

平井編集委員長より2017年度第1回編集委員会について報告が行われた。

日時・場所・出席者

日時：2017年6月3日（土）9:30～10:30

場所：関西大学千里山キャンパス第1学舎5号館会議室1

出席者：大西博子、加藤晴子、鈴木慶夏、薛鳴、中川裕三、平井和之（委員長）、李貞愛
中田聡美（幹事・議事録）

『中国語教育』第16号編集委員

2016年度より：大西博子、鈴木慶夏、薛鳴、平井和之（委員長）

2017年度より：加藤晴子、中川裕三、中西正樹、李貞愛

「投稿規程」の改訂点、及び注意事項の確認（本会報pp. 5-6を参照）

- ・投稿資格：9月30日の時点でその年度までの会費を納入済みの中国語教育学会会員。
- ・受付期間：印刷原稿（1部）の郵送または宅配による受付期間は10月1日から10月31日まで、メール添付（投稿表含む）による受付期間は日本時間の10月1日0:00～10月31日12:00（昼）まで。期間前の投稿は受け付けない。メールの遅配が生じた場合には、印刷原稿の消印・受付日によって判断する
- ・二重投稿の禁止：未公刊、且つ『中国語教育』以外の雑誌等に投稿中でないものに限る。
- ・使用言語の徹底：日本語（要旨は中国語、キーワードは日本語）または中国語（要旨は日本語、キーワードは中国語）とする。母語以外の言語で執筆した箇所は必ず母語話者の校閲を受けること。

編集スケジュール

『中国語教育』第15号と同様とし、2018年3月中旬校了、3月下旬発送とする予定である。

(3) 会員動向、及び会費納入状況

事務局からのお知らせ（本会報p7）を参照。

(4) 2017年度第2回編集委員会、第2回理事会開催日

日時：2017年12月10日（日）

場所：日本大学文理学部（東京都世田谷区桜上水3-25-40）

午前に2017年度第2回編集委員会を、午後に第2回理事会を開催する。

3. 2017年度会員総会報告

日時・場所

日時：2017年6月3日（土）16:50～17:50

場所：関西大学千里山キャンパス第1学舎5号館E601

議長：村上公一

提案者・報告者：清原文代

議案第1号 2016年度決算報告

本会報末尾の資料1（pp. 9-10）を参照。

議案第2号 2017年度予算

本会報末尾の資料2（pp. 10-11）を参照。

議案第3号 名誉会員の推薦

内規に基づき2018年4月1日に条件を満たす以下の会員を推薦し、承認された。

（敬称略、五十音順）

相原茂、岡部謙治、西川優子

なお、2017年4月1日現在で名誉会員の資格を満たす会員については、昨年度の総会にて承認済みである。

報告事項1 会員動向、会費納入状況

本会報p7を参照。

報告事項2 編集委員会報告

本会報pp. 3-4を参照。

報告事項3 2017年度研究会

本会報p6を参照。

報告事項4 2018年度全国大会

(本会報p3を参照)

報告事項4 2019年度全国大会

(本会報p3を参照)

4. 『中国語教育』第16号の投稿募集について

『中国語教育』第16号の投稿受付期間は、2017年10月1日0:00から10月31日(昼)12:00(日本時間)までです。

投稿は2017年9月30日までに2017年度までの会費を納付済みの中国語教育学会会員に限ります。

投稿原稿の印刷原稿1部を、郵送または宅配便により中国語教育学会事務局(〒599-8531 堺市中区学園町1番1号 大阪府立大学 高等教育推進機構 清原文代研究室)に送付してください。印刷原稿の提出期限は2017年10月31日(消印・受領印有効)とします。

あわせて印刷原稿と同じ内容のWordファイル及び投稿票を『中国語教育』第16号編集委員会 contrib@jacle.org 宛に10月31日(昼)12:00(日本時間)までにメールの添付ファイルで提出してください。メールの遅配が生じた場合には、印刷原稿の消印・受付日によって判断します。

今年度よりメール送信の際のSubjectと添付ファイルのファイル名が下記の通り指定されていますので、ご注意ください。

- ・メールの件名(Subject)は「中国語教育投稿原稿20XX(「20XX」は投稿時の西暦年)」とする。
- ・添付する原稿ファイルのファイル名は「中国語教育投稿原稿[執筆者名].doc」または「中国語教育投稿原稿[執筆者名].docx」とする(原稿の題目をファイル名にしないこと)。
- ・添付する投稿票ファイルのファイル名は「subform.doc」から「中国語教育投稿表[執筆者名].doc」に変更すること。
- ・上記ファイル名中の[執筆者名]は、日本漢字、全角平仮名、全角片仮名、半角英字のいずれでも可。共著の場合は代表執筆者名とする。

近年、投稿規程や執筆要領に違反した投稿が増えています。投稿前には必ず最新の投稿規程と執筆要領をご確認ください。今年6月に投稿規程・執筆要領が一部改訂されております。最新版を下記の学会Webページでご確認の上、学会が提供するテンプレートファイルを使用して原稿と投稿票を作成してお送りください。

<http://www.jacle.org/contribution/>

5. 2017年度研究会開催報告

(1) 2017年度第1回研究会

日時：2017年7月1日（土）13:10～17:00（12:40受け付け開始）

場所：愛知大学名古屋校舎L801教室（愛知県名古屋市中村区平池町4丁目60番6）

テーマ：中国語教員、教員志望者のためのブラッシュアップ研修会

「明日からの授業を少しでもよくするために」

対象者：中国語教員、中国語教員をめざしている方

参加費：無料、定員：40名（要事前申込み）

- ・ 中西千香（愛知県立大学）「教科書を教える」からの脱却～第二外国語、第一セメスターを例に
- ・ 荒川清秀（愛知大学）第二外国語の教え方をめぐって
- ・ 中川正之（神戸大学名誉教授）中国語教育の諸問題（聞き手：中西千香）
- ・ 質疑応答、全体討論

参加者数：計40名（うち会員24名、非会員16名）

(2) 2017年度第2回研究会

日時：2017年7月22日（土）13:30～16:40（13:00受け付け開始）

場所：大阪府立大学I-siteなんばA1+A2

（大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号南海なんば第1ビル2階）

対象者：中国語教員、または中国語教員を目指している方

参加費：無料、定員：40名（要事前申込み）

概要：前半は木村英樹東京大学名誉教授・追手門学院大学国際教養学部教授による指示詞、代名詞、疑問詞に関する講義、木村先生のご好意により当日の配布資料は下記Webページでダウンロード可能である。<http://www.jacle.org/meeting-20170722/>

後半はワークショップ、指示詞・代名詞・疑問詞を用いた教案を3～4名1組のグループワークで作成し、ポスター発表を行った。

参加者数：計28名（うち会員13名、非会員15名）

(3) 2017年度第3回研究会

日時、場所とも未定、決定しだい会員メーリングリスト及び学会Webサイトにて通知する。

(4) 研究会担当者連絡先

研究会での発表を希望する会員は、以下の担当者までご連絡ください。

東日本：村上公一（早稲田大学）・藤井達也（埼玉県立伊奈学園総合高等学校） kanto@jacle.org

西日本：清原文代（大阪府立大学）・中西千香（愛知県立大学） kansai@jacle.org

6. 会員情報管理Webシステムについて

事務局業務の一層の合理化をはかると同時に会員の利便性を高めるために、現在事務局で手で入力している会員情報の管理をWebシステムに移行いたします。住所、メールアドレス、電話番号、所属などについて、会員自身で会員情報管理システムを使用して変更が行えるようになります。また、年会費の納入状況についても会員自身が会員情報管理システムを使用して確認ができるようになる予定です。システムの開発は現在事務局業務の一部を委託しているあゆみコーポレーションに依頼しております。2017年9月より会員情報管理システムの運用を開始する予定です。会員情報管理システムの運用が開始されましたら、会員の皆様にID（会員番号）と仮パスワードを郵送いたします。

7. 事務局からのお知らせとお願い

7.1 会員動向

- ・会員総数479名（2017年5月20日時点）
個人会員468名、団体会員11名、名誉会員26名（顧問を含む）。
- ・2016年度入会者計24名（敬称略、入会日順）
奥村佳代子、草原理恵、（公財）国際文化フォーラム、工藤真理子、太田匡亮、越山拓馬、宮島琴美、羅沢宇、伊伏啓子、藤本健一、蟹江静夫、劉国彬、日中学院教学委員会、眞島淳、嘉瀬達男、王雪竹、白焜、片倉健博、林銘珊、李偉（大阪大学・院）、今井淳雄、周振、李偉（松山大学）、川村邦夫
- ・2017年度入会者21名（2017年4月1日～8月22日、敬称略、入会日順）
操智、近藤光雄、王慧雋、張婧禕、孫秀雲、李小捷、張立波、劔重依子、楊靈琳、賀南、楊禮竹、崔丹、楊蕊寧、張弘悦、盧繁華、李光曦、劉光婷、翟勇、干野真一、欧陽丹、小川都

7.2 会費納入状況、会費納入のお願い

2017年度年会費納入総額1,430,000円（2017/4/1～5/20までの総入金額）

2017年度年会費納入額1,335,000円（2017/4/1～5/20までの2017年度分のみ）

会費納入のご協力まことにありがとうございました。

会費未納の方はお早めに納入くださるようお願い申し上げます。特に4月に郵送した払込取扱票記載の金額が15,000円の方は、2017年9月30日までに納入ください。2017年9月30日までに納入がない場合、会則第5条に基づき会員資格を失うこととなります。

また『中国語教育』第16号へのご投稿をお考えの方は、『中国語教育』第16号への投稿は2017年9月30日までに2017年度までの会費を納入済みの会員に限りますので、期日までに納入ください。

4月に郵送した払込取扱票を紛失された場合は、郵便局に備え付けの「払込取扱票」を使用して送金してください。

[口座記号-口座番号] 00110-1-191152 [加入者名] 中国語教育学会

7.3 会費未納による除籍者氏名の掲載について

2018年度より会則第5条に基づき会費未納で除籍になった会員の氏名を会報に掲載します（会報は

学会Webサイトで公開)。退会届が受理された場合、退会者の氏名は掲載いたしません。退会を希望される方は、当該年度までの会費を全て納入した上で、下記の学会事務局へ「退会届」の提出をお願いいたします。

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1番1号
大阪府立大学 高等教育推進機構 清原文代研究室内
中国語教育学会事務局（2016～2017年度）
Email: headoffice@jacle.org

退会届は以下学会Webサイト内にございます。

<http://www.jacle.org/form/>

なお、2017年9月から運用開始予定の会員情報管理Webシステム稼働後は、会費未納がない場合に限り、会員ご自身で会員情報管理Webシステムにて退会届の提出が可能になる予定です。

7.4 登録情報変更届の提出のお願い

学会登録情報（住所・所属・メールアドレス等）の変更を希望される方は、年会費の払込取扱票に変更内容を記載なさらず、必ず「登録情報変更届」を下記の学会事務局事務代行までご提出下さいますようお願いいたします。

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1丁目4-8 日栄ビル703A
あゆみコーポレーション内
中国語教育学会事務局事務代行
TEL. 06-6441-5260（代）
FAX. 06-6441-2055（代）
E-Mail : support@jacle.org

電話番号、ファックスとも他学会と共通で使用しているため、ご連絡の際には「中国語教育学会」についての問い合わせであるということをお知らせください。

登録情報変更届は以下学会Webサイト内にございます。

<http://www.jacle.org/form/>

なお、2017年9月から運用開始予定の会員情報管理Webシステム稼働後は、会員ご自身で会員情報管理Webシステムにて登録情報の変更が可能になる予定です。

7.2 住所不明の会員

下記の会員が住所不明で学会からの郵便物が返送されてきています。連絡先をご存知の方は上記のあゆみコーポレーション内の事務局事務代行までご連絡ください

宗曉蓮、孫珊珊、王萌、王其莉、彭臣晨

資料1 2016年度会計決算書

中国語教育学会 2016 年度会計決算書


	収入		支出	
	2016 年度予算	2016 年度決算	2016 年度予算	2016 年度決算
会費	¥2,400,000	¥2,128,500		
事務費			¥700,000	¥614,813
人件費			¥150,000	¥150,000
郵送費			¥500,000	¥13,270
手数料			¥5,000	¥6,846
会議費			¥50,000	¥44,044
旅費			¥400,000	¥415,603
全国大会開催費		¥268,408 ^{※1}	¥400,000	¥400,000
研究会等開催費			¥70,000	¥71,269
会誌編集印刷費			¥500,000	¥466,236
会誌売上	¥120,000	¥9,000		
幹事手当			¥200,000	¥200,000
利子		¥39		
小計	¥2,520,000	¥2,405,947	¥2,975,000	¥2,382,081
前年度繰越金	¥5,433,248	¥5,433,248		
予備費/次年度繰越金			¥4,978,248	¥5,457,114
合計	¥7,953,248	¥7,839,195	¥7,953,248	¥7,839,195

※1 第14回全国大会の余剰金返金分。

監査の結果、経理内容は適切であり、会計諸表は的確に処理されていることを認めます。

2017年 4 月 22 日

2016 年度会計監査

森 宏子 

2016 年度会計監査

紅粉芳恵 

【注】

(1) 2016 年度の事務費には、事務局が使用した費用と、2016 年度当初に会費請求業務を委託したサラトへの支払い、及び 2016 年 11 月より事務委託を始めたあゆみコーポレーションへの支払いを含む。会計監査の指摘により、2017 年度からは事務局が使用する費用と委託業者（あゆみコーポレーション）に支払う費用を別の費目とする。

(2) サラト及びあゆみコーポレーションへの支払いには郵送費も含む。そのため別の費目として立っている郵送費が見かけ上少なく見えている。別の費目として立っている郵送費は事務局が使用した郵送費である。

(3) 学会誌の売り上げについては第 14 回全国大会時の売り上げのみ。内山書店の委託販売分の報告は会計監査に間に合わなかったため含まれていない。

資料2 2017年度予算案

	収入	支出	備考
前年度繰越金	5,457,114		
会費	2,200,000		
事務委託費（郵送費を含む）		1,100,000	注1
事務費（事務局）		60,000	
郵送費（事務局）		15,000	
振込手数料		8,000	
会議費		50,000	
旅費		450,000	
全国大会開催費		400,000	
研究会等開催費		100,000	
会誌編集印刷費		600,000	
会誌売上	100,000		注2
幹事手当		220,000	
小計		3,013,000	
予備費／次年度繰越金		4,744,114	
合計	7,757,114	7,757,114	

(注1)

会員情報管理Webシステムの作成を現在事務局業務の一部委託をしているあゆみコーポレーションに依頼する費用を含む。

(注2)

内山書店の2016年度の委託販売分の報告が会計監査に間に合わなかったため、2017年度に2016年度（実績）と2017年度（予想額）の2年分の売り上げを計上。